

旧小国町の現況

1. 人口・世帯構成

国勢調査によると、平成12年の人口は7,389人、世帯数は2,074世帯である。人口は昭和22年をピークに減少を始めており、昭和35年には戦前の水準を下回っている。平成7年には昭和30年の半分以下にまで低下している。

人口・世帯数の推移

単位:人、%

年次	世帯数	人口(人)			人口増減率
		総数	男	女	
昭和5年	2,749	14,280	7,240	7,040	-
10年	2,764	14,585	7,421	7,164	2.14%
15年	2,728	15,088	7,587	7,501	3.45%
20年	3,021	17,541	8,511	9,030	16.26%
25年	2,981	16,880	8,324	8,556	-3.77%
30年	2,937	16,121	7,968	8,153	-4.50%
35年	2,785	14,216	6,993	7,223	-11.82%
40年	2,663	12,517	6,118	6,399	-11.95%
45年	2,492	11,035	5,373	5,662	-11.84%
50年	2,322	9,662	4,699	4,963	-12.44%
55年	2,262	9,191	4,474	4,717	-4.87%
60年	2,181	8,775	4,300	4,475	-4.53%
平成2年	2,189	8,400	4,178	4,222	-4.27%
7年	2,104	7,989	3,920	4,069	-4.89%
12年	2,074	7,389	3,625	3,764	-7.51%

資料:国勢調査

2. 集落人口の推移

旧小国町全体の増減傾向と比べ、法末集落の減少率は2倍であり、平成12年では33集落のなかでも5番目に高い数字となっている。

山野田集落は昭和55年から60年にかけて大きく減少し、その後も20%以上の減少率が続いている。平成12年も全集落のなかで3番目に高い減少率を示している。

集落別人口の推移

集 落	人 口								
	昭和55年	60年	増減率	平成2年	増減率	7年	増減率	12年	増減率
総 数	9,191	8,775	-4.5%	8,400	-4.3%	7,989	-4.9%	7,389	-7.5%
山野田	117	56	-52.1%	44	-21.4%	34	-22.7%	28	-17.6%
大 貝	121	104	-14.0%	95	-8.7%	86	-9.5%	86	0.0%
三 桶	271	227	-16.2%	208	-8.4%	188	-9.6%	170	-9.6%
吾野島	204	180	-11.8%	168	-6.7%	155	-7.7%	137	-11.6%
原	367	322	-12.3%	312	-3.1%	283	-9.3%	260	-8.1%
森 光	269	276	2.6%	263	-4.7%	243	-7.6%	217	-10.7%
小栗山	375	364	-2.9%	374	2.7%	339	-9.4%	314	-7.4%
諏訪井	422	419	-0.7%	400	-4.5%	387	-3.3%	356	-8.0%
太郎丸	510	492	-3.5%	456	-7.3%	431	-5.5%	389	-9.7%
小国沢	177	173	-2.3%	154	-11.0%	141	-8.4%	129	-8.5%
上岩田	299	296	-1.0%	268	-9.5%	261	-2.6%	242	-7.3%
法 末	284	222	-21.8%	179	-19.4%	146	-18.4%	123	-15.8%
檜 沢	323	315	-2.5%	289	-8.3%	326	12.8%	300	-8.0%
新 町	440	540	22.7%	575	6.5%	511	-11.1%	515	0.8%
相模原	390	407	4.4%	360	-11.5%	343	-4.7%	333	-2.9%
二本柳	149	126	-15.4%	136	7.9%	126	-7.4%	108	-14.3%
上谷内	97	92	-5.2%	76	-17.4%	65	-14.5%	58	-10.8%
法 坂	492	470	-4.5%	498	6.0%	481	-3.4%	433	-10.0%
桐 沢	359	328	-8.6%	305	-7.0%	287	-5.9%	261	-9.1%
猿 橋	203	193	-4.9%	171	-11.4%	157	-8.2%	140	-10.8%
金 沢	43	48	11.6%	39	-18.8%	41	5.1%	32	-22.0%
箕 輪	233	240	3.0%	287	19.6%	265	-7.7%	264	-0.4%
上 村	101	95	-5.9%	94	-1.1%	91	-3.2%	76	-16.5%
下 村	365	334	-8.5%	332	-0.6%	304	-8.4%	278	-8.6%
武 石	487	474	-2.7%	446	-5.9%	423	-5.2%	382	-9.7%
押 切	173	190	9.8%	178	-6.3%	166	-6.7%	175	5.4%
七日町	307	296	-3.6%	293	-1.0%	271	-7.5%	253	-6.6%
上 栗	317	336	6.0%	331	-1.5%	336	1.5%	293	-12.8%
原小屋	298	278	-6.7%	262	-5.8%	246	-6.1%	232	-5.7%
千谷沢	328	306	-6.7%	290	-5.2%	275	-5.2%	259	-5.8%
鷺之島	397	367	-7.6%	337	-8.2%	326	-3.3%	320	-1.8%
八王子	189	152	-19.6%	136	-10.5%	108	-20.6%	95	-12.0%
芝之又	84	57	-32.1%	44	-22.8%	33	-25.0%	23	-30.3%
サンコーハウス	-	-	-	-	-	114	-	108	-5.3%

資料: 国勢調査

3. 産業

産業構造

旧小国町の総生産額は平成10年をピークに減少傾向にある。

産業別純生産額は、平成15年現在、第1次産業 1,126 百万円。若干の上下はあるが総生産に占める割合は減少の一途をたどっている。

第2次産業は 4,065 百万円。全体には総生産額に占める構成比は減少傾向にある。

第3次産業は 8,693 百万円。平成10年以降小国町の総生産額の6割以上を占めている。

産業別総生産額

単位:百万円、%

年次	総生産	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
		(百万円)	構成比	(百万円)	構成比	(百万円)	構成比
平成2年	13438	1,612	12.0%	5,894	43.9%	5,995	44.6%
		-		*1,543	11.5%	-	
3年	14153	1,516	11.3%	6,250	46.5%	6,456	48.0%
		-		*1,536	11.4%	-	
4年	16516	1,654	12.3%	8,169	60.8%	6,753	50.3%
		-		*1,779	13.2%	-	
5年	15954	1,545	11.5%	7,309	54.4%	7,163	53.3%
		-		*2,157	16.1%	-	
6年	14650	1,688	12.6%	5,538	41.2%	7,504	55.8%
		-		*3,263	24.3%	-	
7年	14927	1,352	10.1%	5,978	44.5%	7,731	57.5%
		-		*4,527	33.7%	-	
8年	15958	1,439	10.7%	6,660	49.6%	8,001	59.5%
		-		*3,357	25.0%	-	
9年	15165	1,269	9.4%	6,034	44.9%	8,030	59.8%
		-		*4,049	30.1%	-	
10年	16573	1,303	9.7%	7,283	54.2%	8,145	60.6%
		-		*3,621	26.9%	-	
11年	14969	1,100	8.2%	5,936	44.2%	8,061	60.0%
		-		*3,129	23.3%	-	
12年	13838	1,114	8.3%	4,458	33.2%	8,427	62.7%
		-		*4,097	30.5%	-	
13年	13459	1,104	8.2%	3,931	29.3%	8,708	64.8%
		-		*4,789	35.6%	-	
14年	13233	1,088	8.1%	3,651	27.2%	8,796	65.5%
		-		*3,705	27.6%	-	
15年	13659	1,126	8.4%	4,085	30.4%	8,693	64.7%
		-		*2,597	19.3%	-	

資料:市町村民所得、市町村民経済計算

注) 第二次産業の下部の*はそのうちの建設業について示す

農業

旧小国町は伝統的な米単作地帯で、稲作中心の農業形態である。畑作は自家用野菜の栽培程度で、いわゆる産地を形成する作物ではない。

平成13年度現在の農業粗生産額は1,655百万円。平成6年から減少傾向にある。

最も生産額割合の高い米の生産額も平成4年をピークに減少を続けている。

農業粗生産額

年次	合計	耕種						
		計	米	麦類	雑穀類	いも類	野菜	果樹類
平成元年	2,339	2,036	1,872	-	13	21	111	65
2年	2,327	2,042	1,872	-	11	19	126	70
3年	2,301	1,995	1,800	-	9	27	144	71
4年	2,442	2,133	1,970	-	10	20	121	69
5年	2,251	1,958	1,780	-	6	19	139	79
6年	2,299	2,025	1,867	-	7	18	129	66
7年	1,992	1,738	1,580	-	7	15	127	66
8年	2,099	1,837	1,681	-	6	16	124	74
9年	1,940	1,706	1,499	-	6	15	143	85
10年	2,000	1,605	1,389	-	4	20	149	83
11年	1,672	1,496	1,327	-	3	18	123	72
12年	1,712	1,512	1,318	-	7	19	131	76
13年	1,655	1,496	1,314	-	9	14	122	65

(つづき)

単位:百万円

年次	耕種						加工	
	乳月牛	生乳	豚	肉豚	鶏	鶏卵	その他畜産物	農産物
平成元年	170	129	-	-	1	1	-	-
2年	187	145	-	-	1	1	-	-
3年	193	147	-	-	-	-	-	-
4年	195	155	-	-	-	-	-	-
5年	197	161	-	-	-	-	-	-
6年	190	157	-	-	-	-	-	-
7年	177	148	-	-	-	-	-	-
8年	174	144	-	-	-	-	-	-
9年	167	145	-	-	-	-	-	-
10年	161	145	-	-	-	-	-	-
11年	156	141	-	-	-	-	-	-
12年	151	138	-	-	-	-	-	-
13年	142	124	-	-	-	-	-	-

資料:新潟県農林水産統計年報

下に農業従業者の年齢構成の推移を示す。

昭和55年からの20年間に、農業従業者は60%も減少している。また年齢構成をみると29歳以下の人口が平成12年には一人となっている。しかし30～59歳の人口構成比が増えてはいない。特に昭和55年から60年の5年間にこの階層の人口が半減している。また60歳以上の人口構成比は必然的にアンバランスに高くなっており、しかし人口は平成7年から12年の間に半減している。地方の農業を支えている中堅及び老齢層の間にも離農の動きが強まっていることが分かる。

年齢別の農業従業者構成の推移

単位：人、%

年次	合計	年 齢					
		18～29歳		30～59歳		60歳以上	
		従業者数	構成比	従業者数	構成比	従業者数	構成比
昭和55年	2,462	151	6.1%	1,336	54.3%	975	39.6%
60年	1,723	88	5.1%	692	40.2%	943	54.7%
平成2年	1,556	-		-		-	
7年	1,483	67	4.5%	280	18.9%	1,136	76.6%
12年	995	1	0.1%	380	38.2%	614	61.7%

資料：農業センサス